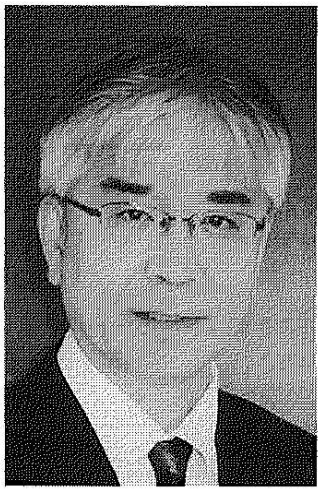
工業会　日本万引システム協会会長

稲本義範



新年明けましておめでとうございます。

平成14年設立のJEASは、平成30年には、経済産業省よりEASと防犯カメラ分野の工業会認定を受け、昨年は個人情報保護委員会指定の認定個人情報保護団体となり、万引防止システム関連に従事するあらゆる企業が参画する総会員数46法人の産業団体に成長しております。

また、工業会として、コロナ感染予防のために、サーモカメラを昨年3月23日に国の税制優遇機器に加えました。7月30日には冊子「店舗やさまざまな施設でのサーモグラフィ・システムの普及に向けて」を発表し、多くの警備の皆様に活用いただいております。貴紙8月5日号においても「正しく説明する唯一のガイドライン」として紹介いただきましたこと、紙面をお借りして深く感謝申し上げます。

さて、最近の万引犯罪の状況ですが、昨年11月に発表された第16回東京万引き防止官民合同会議の統計資料によると、緊急事態宣言前後の比較では、高齢者や女性の万引検挙数がスーパー、ドラッグストア、コンビニで増えています。各地域の防犯関係者にお聞きしたところでは、この増加傾向は概ね全国でも同じ状況です。

新型コロナウイルスの影響は非常に大きく、外出の抑制などで社会的な立場の弱い方ほど社会的孤立を深めており、その影響は万引増加につながっていると思われ、万引対策の最後の要となる保安警備員の皆様がご苦労されていることと拝察します。

ある警備会社代表のお話では、現在、万引被害が増加している地域の店舗から保安業務の依頼があるが、都道府県によっては、保安警備をやっている警備会社が無いため、対応できないとのことです。

新たに事業所を準備するためには、継続的な仕事の依頼が必要であり、適任者を確保しなければならないが、賃金相場が低いため求人が難しいとのこと。まさに保安員空白地域が全国的に拡大しているとのことです。

制度面においても、残念ながら、捕捉時に必要な技術・体力、瞬時の法的対応能力が求められる保安業務は、未だ国家資格ではありません。

誤認逮捕への危惧があるため、実際のところ、現認をしても店内での声掛けは難度が高いです。

もし、一定の資格を有した保安員が店内でも、「お客様、いま、マイバックに商品を入れませんでしたか？」と声を掛けることができ、仮に不法領得が立証できなかったとしても、名誉棄損などで訴えらないような法律の整備が進めば、積極的なアプローチによって、出来心の万引犯や高齢万引者やクレプトマニアの再犯防止に有効に機能するはずです。

加えて高齢万引者への対応にはAED操作や認知症への対応が求められる保安員は、それらへの対応訓練や地域の窓口への連携が必要になっています。それらの打開策立案のために、科学的保安警備員（万引Gメン）を考えるプロジェクト発足を検討しています。

万引Gメンが親身になって来店客への応対ができる仕組み、そのような温かなつながりが地域社会には必要だと考えるからです。

システム面では、大型商業施設や専門店チェーンでは、顔認証システムの普及が進んでおります。

JEAS各社からも中型店や小型店用の顔認証内蔵IPカメラの提供が始まりましたので、商店街などにも普及が加速するものと思います。

一方で、その安全性と個人情報保護の確保が社会的要請となっております。そのため、国内の大手メーカー等が結集し、小売業向け万引防止用「推奨顔認証システム制度」を創設しました。昨年6月に、ガイドラインに基づく審査に合格した4社4システムを認定機種として報道発表しました。

この制度の創設と審査には、長年、顔認証の現場適応に尽力したTOPレベルの万引Gメンの方々が参画しました。

保安業務の生産性向上と安全をサポートするために無くてはならないシステムを生み出す制度に育てるつもりです。

今後のイベント情報ですが、3月7日～12日に国立京都国際会館で開催される第14回国連犯罪防止刑事司法会議（京都コングレス）にバーチャル出展します。

3月9日～12日に東京ビッグサイトで開催されるセキュリティショー2021への出展、会場内のセキュリティセミナー3月9日13：00―14：00「小売業のデジタルトランスフォーメーション&ロスプリベンションの進化の事例」（仮称）の中で、人的警備&万引防止システム（顔認証など）の効果的事例を紹介します。

6月3日の通常総会・記念講演会では、演題「更生・出口支援の影を知って、入口対策の光を学ぶ」（仮称）の講話を予定しています。

防犯民主主義実現の旗の下、工業会JEASは、ロス対策と万引撲滅を目指す唯一のソリューション団体として、「万引犯罪をさせない店舗作り」の推進を通じて、流通業界の健全な経営、また青少年の非行防止や高齢者等の孤立化防止という産業的、社会的役割を果たすべく、所轄官庁はじめ関連諸団体のご支援をいただきながら活動して参ります。引き続きご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。